



ARIMASS Letter

[Association for Risk Management System Studies]

危機管理システム研究学会 2010年6月 第41号

HP <http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

危機管理システム研究学会10周年記念大会とリスク年表

常任理事 東京海上日動リスクコンサルティング(株) 指田 朝久

2010年6月5日(土)桜美林大学でこの学会の10周年記念大会が開催された。大会では10年を記念して2つの特集が行われた。ひとつは各分科会でこれまでの活動を振り返るポスターセッションであり、もうひとつは、各分科会からそれぞれ代表者が集まり会場と交流するビジョン討論会「テーマ：リスク認識の新たな視点」である。ここではポスターセッションの発表でRMS分科会が作成したリスク年表と10年の歩みについてお話する。(次ページ参照)

RMS分科会ではメンバー全員参加で、この10年間の主要な事件や事故を毎年3つ挙げて、それに合わせてRMS分科会のWGの活動を振り返ることとした。また、リスクマネジメントの推進に関係のある法律や規格、ガイドラインもまとめてみることにした。

この年表をみると、この10年はリスクマネジメントにとって大変大きな変化があったことがわかる。学会発足の2000年はY2Kで年明けをしたが、リコールや食中毒、ニューヨークの巨額賠償判決など企業のリスクマネジメントや危機管理に大きな影響を与えるエポックがあった年であった。2001年にはリスクマネジメントのひとつの軸となった内部統制のきっかけとなるエンロン事件や9.11があった。また制度改革ではこの10年に個人情報保護法や会社法、金融商品取引法が制定された。事業継続に関するガイドラインが制定され、新型インフルエンザにも対象が広げられ、そして2009年にはリスクマネジメントに関する国際標準規格ISO31000が制定されることとなった。

WGもJISQ2001規格の研究から、リスクマネジメント用語研究、リスクマネジメントの各国の規格の比較研究、事例研究、そして内部統制の研究など、実際の事

目	次	
巻頭言	1 学会員の学位・論文・新刊書のご紹介	8
2009年度会員総会報告	3 編集後記・事務局からのお知らせ	9
分科会報	5	

件や法制度の変遷に合わせて時代とともにテーマが移り変わっていったことが改めてわかる。リスクのテーマも、事故災害から不祥事、リーマンショック、ERMなどの戦略的なものまで幅広く拡がり、ISO31000ではついにリスクの定義が相当変わった。この定義についてはすでに議論が相当あるが、それは次ぎの10年の課題としよう。

各年表で取り上げたリスクは各年3つとしているため、2004年には10個の台風が、また2005年にはカトリナ災害など地球温暖化と関係の有無が指摘されている水害が抜け落ちている。また2010年はこの3つ以外にも口蹄疫やメキシコ湾海底油田事故なども発生し、久しぶりに事件や事故の多い年になりそうである。また、内部統制関係の法律では公益通報者保護法なども掲載できていない。年表はまだまだ改良の必要はありそうだし、また各年を代表とする事件や事故も各自いろいろ思いがあるであろう。今後の10年を考える上で過去を振り返るきっかけになればメンバー一同大変喜ばしいことである。

危機管理システム研究学会リスクマネジメントシステム研究分科会10年の歩み					
年	事件事故1	事件事故2	事件事故3	法令・制度	RMS分科会の歩み
～2000年	1995年 阪神淡路大震災	1995年 地下鉄サリン事件	1999年 Y2K2000年問題	1992年米国COSO 1998年英国コンバ インドコード 1999年英国ターン ブルガイダンス	
2000年	三菱自動車リコール隠蔽	雪印乳業大規模食中毒 事件	大和銀行巨額賠償判決	なし	危機管理システム研究 学会発足 RMS研究分科会発足
2001年	アメリカ同時多発テロ(91 1)+炭疽菌事件	教育大学付属池田小児 童殺傷事件	エンロン事件	JISQ2001リスクマネ ジメントシステム構築 のための指針	主査 指田 久 JISQ2001研究会
2002年	雪印牛肉偽装	みずほ銀行誕生に伴うシ ステム統合失敗	東京電力原子力発電所 損傷隠蔽	米国企業改革法	内部統制 RMWG 主査 小島 吉樹
2003年	北朝鮮核拡散防止条約 (NPT) 脱退	スペースシャトルコロンビ ア号空中分解	中国他SARS	経産省「リスク新時 代の内部統制」 東京証券取引所リスク情 報開示制度化	主査 小島 吉樹 GOSONI 主査 宮崎 昌和
2004年	六本木ヒルズ回転ドア児 童死亡事故	三菱自動車リコール隠蔽 役員逮捕	インド洋大津波、新潟県 中越地震	COSOERMフレー ムワーク	主査 小島 吉樹 GOSONI 主査 宮崎 昌和
2005年	JR西日本福知山線脱線 事故	みずほ証券1円誤発注	耐震強度偽装(姉歯) 事件	事業継続ガイドライン 個人情報保護法施行 企業会計審議会内部 統制評価と監査基準	主査 小島 吉樹 GOSONI 主査 宮崎 昌和
2006年	ライブドア事件と一連の東 京証券所システムトラブル	シンドラーエレベータ死亡 事故	パロマ工業一酸化炭素 中毒	会社法施行	主査 小島 吉樹 GOSONI 主査 宮崎 昌和
2007年	不二家、ミートホープ他食 品安全事件多発	社会保険庁年金納付記 録紛失発覚	新潟県中越沖地震とサブ ライチェーン事業中断	金融商品取引法施行	主査 小島 吉樹 GOSONI 主査 宮崎 昌和
2008年	中国冷凍ギョーザ殺虫剤 混入事件	中国四川大地震	サブプライムローンとリー マンショック	なし	主査 小島 吉樹 GOSONI 主査 宮崎 昌和
2009年	政権交代	新型インフルエンザ パンデミック	三菱UFJ証券 システム部長による顧客 情報持ち出し	事業継続ガイドライン 第二版 内部統制報告書本番 ISO31000	主査 小島 吉樹 GOSONI 主査 宮崎 昌和
2010年	トヨタリコール	タイ非常事態宣言	アイスランド火山噴火	なし	主査 小島 吉樹 GOSONI 主査 宮崎 昌和

2009（平成21年）年度会員総会報告

議案

- 1) 2009年（平成21年）度活動報告
- 2) 2009年（平成21年）度収支決算報告
- 3) 監査報告
- 4) 2010年（平成22年）度活動計画（案）に関する件
- 5) 2010年（平成22年）度予算書（案）に関する件
- 6) 次期会長候補に関する件
- 7) 役員の新補充に関する件
- 8) 第11回年次大会に関する件

2010年6月5日（土曜日）桜美林大学町田キャンパスにおいて、危機管理システム研究会会員総会が開催された。議長上野治男副会長のもとで以下の議案が審議の上、承認された。議案(1)(2)については別記の活動報告説明がなされ承認された。議案(4)(5)については上野治男副会長から説明があり、承認された。(3)監査報告では斎藤淳監事より2009年度収支決算書の監査報告がなされ、承認された。議案(6)については、会則第15条第4項

の規定（次期会長候補選出（プレジデントイレクト）により、内田 英二（昭和大学）が次期会長候補となり、承認された。議案(7)の役員の新補充に関する件については議長より会則14条の規定により常任理事、理事、幹事の補充の提案がなされ、承認された。議案(8)次回の第11回年次大会は、2011年6月4日（土曜日）に開催することが決定したが、開催校及び大会実行委員長は未定である。

2009年度収支決算書

自 2009年4月1日
至 2010年3月31日

(単位：円)

	収 入			支 出			
	予 算	決 算	差 異	予 算	決 算	差 異	
前 期 繰 越 金	1,473,002	1,473,002	0	大 会 費	400,000	352,290	47,710
会 費 収 入	1,726,000 (1)	1,853,370	△ 127,370	分 科 会 研 究 費	210,000	155,384	54,616
（個人会費）	1,026,000	1,153,370	△ 127,370	広 報 編 集 委 員 会 費	40,000	40,000	0
（賛助会費）	700,000	700,000	0	年 報 費	300,000	328,356	△ 28,356
雑 収 入	1,000 (2)	17,181	△ 16,181	会 報 費	370,000	372,710	△ 2,710
				名 簿 費	65,000	0	65,000
				会 議 費	40,000	7,761	32,239
				通 信 費	50,000	25,950	24,050
				事 務 消 耗 品 費	80,000	350	79,650
				旅 費 交 通 費	50,000	0	50,000
				諸 手 数 料	600,000 (3)	633,155	△ 33,155
				イ ン タ ー ネット 関 係 費	45,000	42,216	2,784
				雑 費	30,000	0	30,000
				予 備 費	230,000	0	230,000
				次 期 繰 越 金	690,002	1,385,381	△ 695,379
合 計	3,200,002	3,343,553	△ 143,551	合 計	3,200,002	3,343,553	△ 143,551
		(収入合計)	1,870,551			(支出合計)	1,958,172

(1) 会費回収率	個人会員	賛助会員	合計	(3)
前年度繰越会費未収額	144,000 円	150,000 円	294,000 円	
2009年度請求額	1,118,000 円	800,000 円	1,918,000 円	
2009年度入金額	1,153,370 円	700,000 円	1,853,370 円	
2009年度会費未収残額	108,630 円	250,000 円	358,630 円	
回収率(※)	91.4%	73.7%	83.8%	
※ 入金額÷(繰越未収額+当年請求額)				

事務作業費および振込手数料他	
普通預金残高	1,358,015
現金残高	27,366
	<u>1,385,381</u>

(2) 雑収入：会員よりの寄付金および預金受取利息

2010年度予算書

自 2010年4月 1日
至 2011年3月31日

(単位:円)

	収 入			支 出	
	予 算	前年度予算比		予 算	前年度予算比
前期繰越金	1,385,381	△ 87,621	大会費	350,000	△ 50,000
会費収入 (1)	1,726,000	0	分科会研究費	210,000	0
（個人会費	1,026,000	0	広報編集委員会費	40,000	0
（賛助会費	700,000	0	年報費 (2)	300,000	0
雑収入	1,000	0	会報費 (3)	370,000	0
			名簿費	30,000	△ 35,000
			会議費	15,000	△ 25,000
			通信費	30,000	△ 20,000
			事務消耗品費	10,000	△ 70,000
			旅費交通費	10,000	△ 40,000
			諸手数料 (4)	600,000	0
			インターネット関係費	45,000	0
			雑費	15,000	△ 15,000
			予備費	100,000	△ 130,000
			次期繰越金	987,381	297,379
合 計	3,112,381	△ 87,621	合 計	3,112,381	△ 87,621

注記 (1) 個人会員 @6,000×190名×0.9=1,026,000
 賛助会費 @50,000×14回=700,000
 (2) 年報費：入力作業及び製本費+郵送料
 (3) 会報費：印刷費4回+郵送料
 (4) 事務作業費及び諸手数料代

収入 1,727,000
 支出 2,125,000
 収支 ▲ 398,000

【監査報告】領収書・預貯金通帳・残高との照合のうえ、2009年度の収支決算書は会計帳簿などの記録と一致し、危機管理システム研究学会の収支状況を正しく反映しているものと認めました。

2010年4月26日 幹事 齋藤 淳 ・ 井端 和男



ビジョン討論会の様子

広報・編集委員会からのお知らせ

第10回年次大会の様子は、保険毎日新聞2010年6月24日号に詳しく記事掲載されました。

分科会報告

【RMS（リスクマネジメントシステム）研究分科会】

主査：指田 朝久（東京海上日動リスクコンサルティング）

2010年度のRMS分科会のWG活動計画のご案内をいたします。2010年度は基本的には2009年度の活動を踏まえた活動を継続させていただきます。昨年度開催いたしました、「リスクマネジメント事例研究WG」（主査内田知男）、「ERM研究WG」（主査宮崎昌和）を引き続き実施します。「リスクマネジメント規格の国際比較WG」は一旦終了し、「ISO31000研究WG」（主査後藤和廣、副主査吉川賢一）を設置します。ISO31000研究WGでは、危機管理システム研究会発足当時実施したJISQ2001の詳細研究同様の規格文書の精読研究を実施することといたします。基本的にはこれらの各WGはそれぞれ2ヶ月～3ヶ月に1回程度のWGを開催し、打ち合わせとメーリングリストの意見交換により研究を進め、年度末には1年間の研究報告書を作成いたします。この3つのWGの参加メンバーの募集を行っております。参加希望の方は事務局にお申し出ください。皆様の積極的なご参加を願っております。

WG参加希望連絡先 事務局 尼野 良 E-mail arimass@mu.biglobe.ne.jp

Tel. 03-5753-0080 FAX. 03-5753-0086

【リスク事例サロン分科会】

主査代行：小島 修矢（クエスト コンサルティング ロンドン）

分科会事務局：有賀 平（MS&AD 基礎研究所）

「リスク事例サロン分科会」はマスコミ等で取り上げられた事件や危機事例を題材に、会員間で自由に危機管理・リスクマネジメントの観点から情報交換や意見交流を行うことを目的としています。

本分科会は開催の都度参加者を募り、サロンと言う名前のおり飲食しながらテーマに関連して自由に意見交換を行う会費制の分科会です。今回は、第47回分科会の報告をいたします。

<第47回（2010年5月12日（水）午後6：30～8：30、於：東洋経済新報社9階会議室）>

1. 参加者（8名）： 竹中、山本、丸本、山崎、笹子、甲斐、小島 ※敬称略
2. テーマ：都市ガステレマーケティング会社におけるリスク管理について
3. 報告者： 龍崎 恭一 氏（東京ガステレマーケティング株式会社）
4. 報告内容骨子

エネルギー業界は、新政権が掲げた「温室効果ガスの大幅削減」目標と、そのためでもある「低炭素社会の実現」に向けて国のエネルギー政策が大きく変わろうとしている中で、石油、電力、ガスの枠組みを超えた新たなエネルギー産業構造の構築が模索され始めています。都市ガス産業も大きな変革期を迎えており、弊社の親会社である東京ガスをはじめとするオール東京ガス（東京ガスグループの総称）も新たな視点での事業展開が求められています。

こうした中であってオール東京ガスの営業上の課題のひとつは引き続き「お客様づくり」であり、その大前提は「お客様をお守りする」ことです。コールセンター事業、派遣事業を主な業とし、とりわけお客様のご案内役を担っている東京ガスの子会社である当社は、日頃から課題の達成にむけた様々な取組みを行っています。

5. 自由意見・情報交流内容（要旨）

- BCM (Business Continuity Management)の実行には、具体的なリスク事例を想定して対応策や費用を見込んでおく必要がある。
- クレームや事故が発生した場合には、親会社との連携が重要になると思う。
- 企業グループを形成している場合、個々の会社のみならず、グループ全体の内部統制も重要。当然として、親会社の内部統制の中に子会社は組み込まれている必要がある。
- お客様へのトラブル対応は、重要な顧客サービスであり、従業員にとって「負担」というマイナスのイメージのものではないのではないか？
- 通常の事業所と異なる就業時間や労働条件が、コールセンター特有の労務管理の難しさを引き起こすということはあるのか？
- 夜間のオペレーションは、ダブルワークメンバー制や、ピーク・オフピークを考慮した人員シフト体制を取っている。
- 平均 50 日間は業務の一環として研修を受講してもらっている。
- コールセンターを大連（中国）に置いている企業もある。
- コールセンターのオペレーターは、楽な事業所に移る傾向があると聞いている。
- マニュアルに依存しすぎると質の低下が懸念されるのではないのか？
- 従業員教育が、マニュアルによって業務を運営するためには重要となると思う。
- 離職率など Key Performance Indicator、業界ランキングに注意している。
- 近年、マスコミにおいて、「モンスター・・・」と呼ばれる人々が取り上げられているが、こうした現象が業務に影響することもある。
- コンプライアンスの行き過ぎが業務に影響を与えることもあるのか？
- コンプライアンスは米国の影響が大きいですが、米国では規制を業界で決めることが主流であり、日本では行政が決めるのが一般的になっている。
- 金融機関での貸し渋り、不払いのケースでは消費者保護が過度に振れている面もあるが、従来の対応に問題があったことも否定はできない。対応が保守的にならざるを得ない。

- 大企業に対しては、安全を最優先すべきとの風潮もある。松下電器の暖房機、海上自衛艦のナダシオの艦長へ風当たりなどに表れている。

以上

【MRM（メディカルリスクマネジメント）分科会】

主査：大川 淳（東京医科歯科大学大学院）

MRM 本執筆に向けて、頻回に会合を開催している。

第1回

日 時 平成 22 年 4 月 21 日（水曜日）

場 所 南山堂

参加者 寺本、能崎、辻、吉川、坪内、宮崎、長井

内 容 編集者との打ち合わせ

第2回

日 時 平成 22 年 5 月 12 日（水曜日）

場 所 順天堂大学

参加者 寺本、大川、坪内、吉川、宮崎、長井

内 容 執筆のスケジュール確認

第3回

日 時 平成 22 年 6 月 9 日（水曜日）

場 所 昭和大学

参加者 内田、寺本、吉川、長井、千葉、大川

内 容 執筆内容の確認

【企業活性化研究分科会】

主査：古山徹（日経メディアマーケティング）

<第 29 回>

1. 日時、場所：2010 年 3 月 13 日（土）時間：13：30～14：30 於：専修大学（神田校舎）

2. 参加者：15 名

3. 報告 1：宮川宏（専修大学大学院） 『“Turnaround Strategies” by Charles W. Hofer』 についての翻訳および検討。

4. 報告 2：魚谷竜也（キヤノンマーケティングジャパン） アリサカについて粉飾・破綻の経緯の検証

<第30回>

1. 日時、場所：2010年4月24日（土）時間：13：30～14：30 於：専修大学（神田校舎）
2. 参加者：13名
3. 報告1：齋藤幸雄（専修大学大学院） 『“Turnaround Strategies” by Charles W. Hofer』 についての翻訳および検討
4. 報告2：星野敏之（枡徳） アイ・エックス・アイの粉飾についての分析

<第31回>

1. 日時、場所 2010年5月22日（土）時間：13：30～16：30 於：専修大学（神田校舎）
2. 参加者：14名
3. 報告1：宮川宏（専修大学大学院） 『“Turnaround Strategies” by Charles W. Hofer』 についての翻訳および検討
4. 報告2：木村充宏（日経リサーチ） ゼンテック・テクノロジー・ジャパンの粉飾についての分析

【価値ベース・リスクマネジメント研究分科会】

主査：藤江俊彦（千葉商科大学）

<第10回>

1. 日時、場所：2010年3月9日（火）時間：18：30～20：30 於：千葉商科大学
2. 参加者：10名
3. 報告：樋口晴彦氏（警察大学校警察政策研究センター主任教授）
「調査報告書を活かすリスクマネジメント」について

<第11回>

1. 日時、場所：2010年4月20日（火）時間：18：30～20：30 於：千葉商科大学
2. 参加者：9名
3. 報告：仲村康之亮氏（テュフラインランドジャパン(株) COO 付）
「リスクマネジメントと認証制度」について

<第12回>

1. 日時、場所 2010年6月15日（火）時間：18：30～20：30 於：千葉商科大学
2. 参加者：6名
3. 報告：山田喜代信氏（トッパン・フォームズ(株)）
「ERMをうまくやるキーポイント」について

(担当：土屋清人)

学会員の学位・論文・新刊書のご紹介

著書名：「与信限度の実務」

会員名: 高市 幸雄(タカイチ ユキオ) (東京商工リサーチ) …企業活性化研究分科会所属

内 容: 成長戦略の見通しが定めにくい環境の中、ビジネスリスクのなかで与信管理の良否は会社の生死に係る場合もみられるにもかかわらず、ケース・バイ・ケースで解決されることが多いのが現実でもある。本著は長年の 4500 社余りの信用調査の体験を基礎にして、各々のケースの分析から纏め上げられた「与信管理の実務書としての一つの試案」として出版された。体系的に「実務の手引書」として利用でき、読者が自社の手法と比較検討すれば、より質の高い業務を遂行していける内容となっている。

著者略歴

株式会社東京商工リサーチ取締役・中部地区本部長・名古屋支社長。危機管理システム研究学会会員、日本経営分析学会会員、日本物流学会会員。昭和 30 年石川県生まれ、昭和 52 年専修大学商学部卒、同年東京商工リサーチ入社、15 年間調査員として約 4,500 社の企業信用調査業務に従事。信用調査レポートシステムの構築・マニュアル作りに参画。平成 15 年取締役就任、業務本部長、平成 18 年現職就任。平成 22 年 6 月本社情報本部長就任。講師:平成 21 年愛知学院大学大学院・東京商工リサーチ寄附講座(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)

出版社	中央経済社	単行本	213ページ	発売日	2010/6/15
ISBN-10	4502231509	ISBN-13:	9874502231506		

【編集後記】

最近、新聞やニュースなどで情報漏洩に関するニュースを目にすることが少なくなりました。それにつれて、今までセキュリティや危機管理を普段意識することが少ない立場にあった人の意識が、また情報セキュリティから離れているように感じます。「大学」という組織に限っても、平均すると月 1 件のペースで日本のどこかで漏洩事件が発生しています。直近では 1 万件規模の個人情報を含む内部文書の漏洩事件が発生しています。大まかにその傾向を見ていると、メディア紛失や PC 盗難、メール誤送信、ルール違反など、技術的な要因は間接要因に過ぎず、直接は人為的な原因がほぼすべてと言ってよい状況です。

情報セキュリティは、技術はとて高度になってきていますが、まだまだ情報を扱う人たちの心がけに依存しているところが少なくありません。それは当然リスクマネジメントにも言えることです。こういったシステムチェックにいかない部分をどうするか。事件を目にする度にあらためて考えさせられます。

(広報・編集委員 正岡 和貴)

<事務局からのお知らせ>

1. 分科会連絡先

教育実践分科会

主査：後藤和廣

TEL. 03-3291-8921 / Fax. 3291-8930

e-mail: gotokaz@aol.com

リスクマネジメントシステム研究分科会

主査：指田朝久

TEL. 03-5288-6584(直) / Fax. 03-5288-6590

e-mail: t.sashida@tokiorisk.co.jp

リスク事例サロン分科会

主査：島田公一

TEL. 03-5423-1070 / Fax. 03-5423-1074

e-mail: kshimada0011@yahoo.co.jp

ご連絡は、都合により暫くの間下記主査代行までお願いいたします。

主査代行：小島修矢 Tel: 047-338-6185 / Fax. 047-338-6185

e-mail: kojimash@mb.infoweb.ne.jp

メディカルリスクマネジメント分科会

主査：大川 淳

TEL. 03-5803-4513 / FAX 03-5803-4513

e-mail: okawa.merd@tmd.ac.jp

企業活性化研究分科会

主査：古山 徹

TEL. 03-5295-6217 / FAX 03-5295-6329

e-mail: furuyama@nikkeimm.co.jp

価値ベース・リスクマネジメント研究分科会

主査：藤江俊彦

TEL. 047-372-4111 / FAX 047-373-9919

e-mail: fujie@cuc.ac.jp

2. 住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には変更前と変更後を並記のうえ必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-3-7

スリージェ南大井ビル (株)リムライン内

TEL. 03-5753-0080 FAX. 03-5753-0086

e-mail: arimass@muh.biglobe.ne.jp

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

2010年6月30日発行

印刷 株式会社 文典堂 03-3762-0721